平成24年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年10月31日

上場会社名　　ロイヤルホールディングス株式会社　　上場取引所　東・福
コード番号　　8179　　ＵＲＬ　http://www.royal-holdings.co.jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）菊地　唯夫
問合せ先責任者（役職名）コーポレートコミュニケーション室長（氏名）城島　孝寿　　ＴＥＬ　03-5707-8873
四半期報告書提出予定日　平成24年11月13日　　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．平成24年12月期第３四半期の連結業績（平成24年１月１日～平成24年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第３四半期	85,773	5.5	2,702	21.7	2,907	28.8	1,852	－
23年12月期第３四半期	81,280	△1.1	2,221	9.9	2,256	6.5	△1,661	－

（注）包括利益　24年12月期第３四半期　1,906百万円（－%）　23年12月期第３四半期　△1,899百万円（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第３四半期	48.03	－
23年12月期第３四半期	△43.08	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年12月期第３四半期	76,973	41,350	52.9	1,055.95
23年12月期	77,872	39,850	50.4	1,017.55

（参考）自己資本　24年12月期第３四半期　40,723百万円　23年12月期　39,243百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	－	0.00	－	10.00	10.00
24年12月期	－	0.00	－		
24年12月期（予想）				10.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．平成24年12月期の連結業績予想（平成24年１月１日～平成24年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	112,500	3.0	2,400	11.5	2,500	12.6	1,000	－	25.93

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：無
④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年12月期３Ｑ	40,804,189株	23年12月期	40,804,189株
②　期末自己株式数	24年12月期３Ｑ	2,238,392株	23年12月期	2,237,875株
③　期中平均株式数（四半期累計）	24年12月期３Ｑ	38,566,033株	23年12月期３Ｑ	38,566,586株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

１．本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、［添付資料］３ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

２．本資料の［サマリー情報］、［添付資料］２ページ「連結経営成績に関する定性的情報」及び10ページ「セグメント情報等」に記載している売上高には、その他の営業収入を含めております。

○添付資料の目次

頁

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 4
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 4
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
（４）追加情報 …… 4
３．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書（第３四半期連結累計期間） …… 7
四半期連結包括利益計算書（第３四半期連結累計期間） …… 8
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 10
（５）セグメント情報等 …… 10
（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 11

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景に、緩やかに回復の兆しを見せたものの、欧州債務問題への不安や海外経済の減速など景気の下振れ懸念があり、また、企業を取り巻く経営環境は、原油価格の高止まりや電力の安定供給への懸念など、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

当外食業界におきましては、消費者の外食頻度は持ち直しの傾向が見られるものの、顧客確保のための企業間競争は激しさを増しており、当業界を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような環境の下、当社グループでは、今後見込まれる経営環境の変化と外食産業の構造的課題を踏まえ、昨年11月に持続的な成長を基本方針とした新中期経営計画「Fly to 2014」を策定いたしました。その初年度にあたる当連結会計年度におきましては「基盤固め・成長戦略の浸透」をキーワードに６つの事業戦略（①「ロイヤルブランドの再構築」②「成長エンジンの育成」③「収益基盤の拡大」④「時代対応業態の開発と進化」⑤「事業開発機能の強化」⑥「M＆Aの活用・海外への進出」）と２つのインフラ戦略（①「インフラの強化とグループシナジーの追求」②「効率経営体への転換」）を骨子とした各種経営施策を着実に進めております。

昨年度からの施策による効果や、上記の各種経営施策を着実に進めた結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は85,773百万円（前年同期比＋5.5%）、営業利益は2,702百万円（前年同期比＋21.7%）、経常利益は2,907百万円（前年同期比＋28.8%）となりました。また、特別損益として受取補償金90百万円を特別利益に、閉鎖を決定した店舗等の固定資産の減損損失125百万円など総額262百万円を特別損失に計上したほか、法人税等843百万円及び少数株主利益40百万円を計上しており、これらの結果、当第３四半期連結累計期間の四半期純利益は1,852百万円（前年同期四半期純損失1,661百万円）となりました。

セグメント別の概況については、次のとおりであります。

（外食事業）

当社グループの基幹である外食事業におきましては、ホスピタリティ・レストラン「ロイヤルホスト」、天丼・天ぷら専門店「てんや」、ピザレストラン「シェーキーズ」、グリル&サラダバー「シズラー」などのチェーン店のほか、ビアレストラン、カフェ、各種専門店等の多種多様な飲食業態を展開しております。

主力の「ロイヤルホスト」では、人気の「黒×黒ハンバーグ」を前面に謳った「黒×黒ハンバーグ王国」や30年目となる恒例の「夏のカレーフェア」を開催するなど、お客様の視点に立った商品開発やメニュー施策を実践し、お客様満足度の向上に努めてまいりました。

また、全国への展開を進めている新業態「カウボーイ家族（ステーキファミリーダイニング）」は、当第３四半期連結累計期間で計９店舗の業態転換を行い、全20店舗の体制となりました。

以上の結果、既存外食店舗での各種施策効果による客単価の上昇傾向とともに、アルコール業態の伸長や新業態の展開等による売上の上積み効果が見られ、売上高は42,722百万円（前年同期比＋2.7%）、経常利益は2,004百万円（前年同期比＋60.2%）となりました。

（コントラクト事業）

コントラクト事業におきましては、法人からの委託等により、空港ターミナルビル、高速道路サービスエリア、大型商業施設、オフィスビル、介護施設、百貨店、ゴルフ場等において、それぞれの立地特性に合わせた多種多様な飲食業態を展開しております。当第３四半期連結累計期間におきましては、積極的に新規出店するなど事業の拡大に努めました。また、空港ターミナルビル、高速道路サービスエリア内の店舗における施設利用者減少に伴う来客数減少の影響が一巡し、その他の既存施設における集客が底支えした結果、売上高は22,250百万円（前年同期比＋6.1%）、経常利益は876百万円（前年同期比△18.6%）となりました。

（機内食事業）

機内食事業におきましては、アジア方面路線を中心とした国際線への搭載が引き続き堅調に推移したほか、新規就航路線に係る受注獲得もあり、売上高は5,617百万円（前年同期比＋14.0%）、経常利益は1,105百万円（前年同期比＋17.3%）となりました。

（ホテル事業）

ホテル事業におきましては、３月に開業した「リッチモンドホテル浅草」が売上増加に寄与するとともに、既存ホテルが高い客室稼働率を維持していることなどにより、売上高は12,811百万円（前年同期比＋11.3%）、経常利益は944百万円（前年同期比＋21.7%）となりました。

（食品事業）

食品事業におきましては、主に当社グループの外食事業とコントラクト事業における食品製造、購買、物流業務等の外食インフラ機能を担っているほか、一部グループ外企業向け製品の製造も行っております。当第３四半期連結累計期間におきましては、主に外食事業を中心としたグループ内向け食品製造の増加に伴い、売上高は6,097百万円（前年同期比＋1.6％）、経常利益は179百万円（前年同期比△59.2％）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第３四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ898百万円減少し76,973百万円となりました。内訳は、流動資産が190百万円増加し、固定資産が1,088百万円減少しております。流動資産の増加は、未収入金の減少等による、その他流動資産の減少503百万円があった一方、現金及び預金の増加643百万円があったことなどによるものであります。また、固定資産の減少は、店舗閉鎖等に伴う差入保証金の減少1,206百万円があったことなどによるものであります。負債は、前連結会計年度末に比べ2,399百万円減少し35,622百万円となりました。これは、有利子負債の圧縮を進めたこと等により、短期借入金及び長期借入金が合計して2,273百万円減少したことなどによるものであります。純資産は、四半期純利益1,852百万円を計上し、配当金385百万円を支払ったことなどにより、前連結会計年度末に比べ1,500百万円増加し41,350百万円となりました。これらの結果、１株当たり純資産額は、前連結会計年度末に比べ38円40銭増加し1,055円95銭となりました。また、自己資本比率は、前連結会計年度末比2.5ポイント上昇し52.9％となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第３四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ643百万円増加し、6,014百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第３四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、前第３四半期連結累計期間に比べ2,587百万円収入が増加し、5,272百万円の収入となりました。当第３四半期連結累計期間の法人税等の還付・支払前のキャッシュ・フロー（収入）は、前第３四半期連結累計期間に比べ1,485百万円増加し、5,927百万円の収入となりました。また、法人税等の還付・支払によるキャッシュ・フロー（支出）は、前連結会計年度における課税所得の減少に伴い、前第３四半期連結累計期間に比べ1,101百万円減少しております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第３四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、前第３四半期連結累計期間に比べ657百万円支出が減少し、1,541百万円の支出となりました。これは、当第３四半期連結累計期間において、有形固定資産の取得による支出が266百万円増加した一方、差入保証金の増減額（収入）が804百万円増加したことなどによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第３四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、前第３四半期連結累計期間に比べ736百万円支出が増加し、3,087百万円の支出となりました。これは、当第３四半期連結累計期間において、短期借入金の純増減額（支出）が500百万円減少し、長期借入金の返済による支出が307百万円減少した一方、長期借入れによる収入が1,500百万円減少したことなどによるものであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

「サマリー情報」に記載した平成24年12月期 売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益の連結業績予想は、既に公表しております連結業績予想から修正は行っておりません。なお、当該業績予想は、当社グループが現時点までに入手可能な情報から判断して、合理的であるとした一定の条件に基づいたものです。実際の業績は、「天候」「景気動向」等の様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

（４）追加情報

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

第１四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号　平成21年12月４日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号　平成21年12月４日）を適用しております。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年12月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,370	6,014
受取手形及び売掛金	4,153	4,031
たな卸資産	1,748	1,790
繰延税金資産	935	1,065
その他	3,276	2,773
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	15,481	15,671
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,337	9,907
土地	11,947	11,918
リース資産（純額）	7,868	8,590
その他（純額）	3,874	3,920
有形固定資産合計	34,028	34,337
無形固定資産		
のれん	491	346
その他	452	464
無形固定資産合計	943	811
投資その他の資産		
投資有価証券	6,992	7,224
差入保証金	18,941	17,734
繰延税金資産	1,208	933
その他	290	274
貸倒引当金	△13	△13
投資その他の資産合計	27,418	26,153
固定資産合計	62,391	61,302
資産合計	77,872	76,973

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年12月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年９月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,230	2,889
短期借入金	1,500	200
1年内返済予定の長期借入金	4,509	4,269
未払法人税等	713	348
引当金	429	1,013
その他	7,449	6,979
流動負債合計	17,832	15,699
固定負債		
長期借入金	7,968	7,235
リース債務	7,862	8,664
繰延税金負債	1	52
引当金	262	267
資産除去債務	3,258	3,254
その他	835	448
固定負債合計	20,189	19,922
負債合計	38,021	35,622
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,676	13,676
資本剰余金	23,708	23,708
利益剰余金	4,569	6,035
自己株式	△2,723	△2,724
株主資本合計	39,229	40,696
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13	27
その他の包括利益累計額合計	13	27
少数株主持分	607	627
純資産合計	39,850	41,350
負債純資産合計	77,872	76,973

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年１月１日 至　平成23年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年１月１日 至　平成24年９月30日）
売上高	79,737	84,230
売上原価	24,717	26,405
売上総利益	55,020	57,825
その他の営業収入	1,543	1,542
営業総利益	56,563	59,367
販売費及び一般管理費	54,342	56,665
営業利益	2,221	2,702
営業外収益		
受取利息	7	2
受取配当金	96	95
持分法による投資利益	65	232
協賛金収入	73	66
その他	198	188
営業外収益合計	441	585
営業外費用		
支払利息	341	337
その他	63	42
営業外費用合計	405	379
経常利益	2,256	2,907
特別利益		
受取補償金	95	90
役員賞与引当金戻入額	8	－
特別利益合計	103	90
特別損失		
投資有価証券評価損	7	－
固定資産除売却損	171	88
減損損失	79	125
災害による損失	427	－
店舗閉鎖損失引当金繰入額	14	－
関係会社株式取得に係る損失	－	49
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,540	－
特別損失合計	3,240	262
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△880	2,736
法人税等	864	843
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△1,744	1,892
少数株主利益又は少数株主損失（△）	△83	40
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△1,661	1,852

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年１月１日 至　平成23年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年１月１日 至　平成24年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△1,744	1,892
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△154	13
その他の包括利益合計	△154	13
四半期包括利益	△1,899	1,906
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,815	1,866
少数株主に係る四半期包括利益	△83	40

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年１月１日 至　平成23年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年１月１日 至　平成24年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△880	2,736
減価償却費	2,727	3,035
のれん償却額	373	144
減損損失	79	125
災害損失	427	－
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,540	－
引当金の増減額（△は減少）	440	611
受取利息及び受取配当金	△104	△98
支払利息	341	337
持分法による投資損益（△は益）	△65	△232
投資有価証券評価損益（△は益）	7	－
固定資産除売却損益（△は益）	171	87
関係会社株式取得に係る損失	－	49
売上債権の増減額（△は増加）	229	121
たな卸資産の増減額（△は増加）	151	△42
仕入債務の増減額（△は減少）	△620	△341
その他	△872	△433
小計	4,947	6,102
利息及び配当金の受取額	140	164
利息の支払額	△342	△339
災害損失の支払額	△303	－
法人税等の還付額	227	485
法人税等の支払額	△1,984	△1,140
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,684	5,272
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,154	△2,420
投資有価証券の取得による支出	△300	－
関係会社株式の取得による支出	－	△167
関係会社出資金の払込による支出	－	△40
差入保証金の増減額（△は増加）	447	1,252
店舗閉鎖等による支出	△131	△107
その他	△59	△58
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,198	△1,541
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△1,800	△1,300
長期借入れによる収入	3,200	1,700
長期借入金の返済による支出	△2,981	△2,673
配当金の支払額	△385	△385
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△370	△425
その他	△13	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,350	△3,087
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,864	643
現金及び現金同等物の期首残高	8,242	5,370
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,377	6,014

（４）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（５）セグメント情報等

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（平成23年１月１日から平成23年９月30日まで）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他（注）１	合計	調整額（注）２	連結財務諸表計上額（注）３
	外食事業	コントラクト事業	機内食事業	ホテル事業	食品事業	計				
売上高（注）４										
外部顧客への売上高	41,274	20,944	4,884	11,460	28	78,592	2,688	81,280	－	81,280
セグメント間の内部売上高又は振替高	312	18	42	53	5,975	6,401	173	6,574	△6,574	－
計	41,587	20,963	4,926	11,514	6,003	84,993	2,861	87,855	△6,574	81,280
セグメント利益	1,250	1,075	942	775	438	4,483	172	4,656	△2,399	2,256

（注）１　「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品販売、不動産賃貸等の事業を含んでおります。

２　セグメント利益の調整額は全社費用であり、主にセグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

３　セグメント利益は連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

４　売上高には、その他の営業収入を含めております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「外食事業」セグメントにおいて、閉店が決定されたことにより、回収可能性が認められなくなった事業資産についての減損損失を特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は79百万円であります。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（平成24年１月１日から平成24年９月30日まで）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他（注）１	合計	調整額（注）２	連結財務諸表計上額（注）３
	外食事業	コントラクト事業	機内食事業	ホテル事業	食品事業	計				
売上高（注）４										
外部顧客への売上高	42,393	22,227	5,574	12,761	46	83,003	2,769	85,773	－	85,773
セグメント間の内部売上高又は振替高	328	22	42	49	6,050	6,494	190	6,685	△6,685	－
計	42,722	22,250	5,617	12,811	6,097	89,498	2,960	92,458	△6,685	85,773
セグメント利益	2,004	876	1,105	944	179	5,109	199	5,309	△2,401	2,907

（注）１　「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品販売、不動産賃貸等の事業を含んでおります。

２　セグメント利益の調整額は全社費用であり、主にセグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

３　セグメント利益は連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

４　売上高には、その他の営業収入を含めております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「外食事業」セグメントにおいて、閉店が決定されたことにより、回収可能性が認められなくなった事業資産についての減損損失を特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は27百万円であります。

「コントラクト事業」セグメントにおいて、処分が予定され又は店舗の閉店が決定されたことにより、回収可能性が認められなくなった事業資産についての減損損失を特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は95百万円であります。

（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。